

舞台裏

福祉とアート。多様化し、より専門複雑と化した社会の中にいると、言葉の放つ本来の意味や、そこに在る思想からより遠くへ行ってしまふことがあります。そこで改めて「福祉」と「アート」を広辞苑で引いてみました。

【福祉】幸福。公的扶助による生活の安定、充足。初めに「幸福」の文字。「Happiness」と表記されています。と言う事は、役所にある「福祉課」は「幸福課」となる。これちょっと、斬新ですね！

さて次に「アート」。**【art】**芸術。美術。技術。**【芸術】**技芸と学術。一定の材料・技巧・様式などによる美の創作・表現。時間芸術と空間芸術…。正直、何かよく分からないので、更に語源を辿ります。アートの語源は、フランス語の「art・アール」。そして、ラテン語の「ars・アルス」から来ています。そこで**【アルス】**をラテン語の辞書で引いてみると、技、手腕、技術、学術、芸術、技芸、手仕事とあり、私たちが捉える芸術・美術といった概念よりも、手仕事や技能を指しているよう。そして、ギリシャ語との関連も含めると、ただ単なる技術の意味合いだけでなく、そこには、「あらゆる人間の幸福を創りだす行為・仕事」と捉えることが出来ます。なるほど。**【アート・アルス】**とは、「人間が幸せになるための技術や行為・方法や術」。絵画や彫刻、建築や工芸。広くは文学、音楽、演劇などといった美の表現や鑑賞といった世界よりも、日々、暮らしの中に「幸せ」を作り出すためのアイデアや活動の事のようにです。

さて表題の「福祉とアート」。両者とも「幸福」がテーマで、キーワード。この視点からJOY 倶楽部を改めて見つめると、もとより、この関係がとても親しい施設であることに気が付きます。福祉施設が何故アート活動を？といった問いに、これでガッテンです！幸福な家で幸せな活動をする施設。そして何よりも、そこで活動する彼等と、それを支えるスタッフって素敵だね。